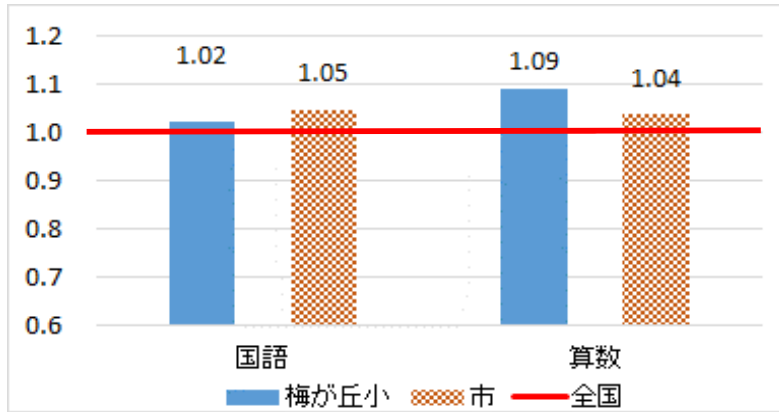


○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

【国語】

ほぼすべての領域において、全国平均を上回る結果であった。しかし、「話すこと・聞くこと」については課題が見られ、特に「資料を読んで要約して書く」問題に弱さが見られた。引き続き、自分の考えを明確に分かりやすく記述したり、要約したりする学習活動を大切にしていく。

【算数】

すべての領域で全国平均を上回っており、特に「棒グラフから数量を読み取る」問題においては、本校の正答率は100%と、非常に良好な結果が見られた。これからも引き続き、論理的に考え方を記述する学習活動を大切にしていく。

【質問紙調査】

本校においてはこれまで、「自分にはよいところがありますか」の質問で肯定的な回答をする子どもの割合が全国平均を大きく下回る状況にあったが、今年度は、全国平均を6.4ポイント上回る結果となった。引き続き、梅小ソーランや各行事の取組等、一人一人の自己肯定感を高める取組を推進していく。

○学力向上の取組

【中学校区】

以下の取組を通して、9年間の段差のない、絶え間のない学力向上を目指す。

- ・ディベート教育を通して、学力の礎となる考える力を育む。
- ・小中一貫推進委員会を概ね2ヶ月に1回、小中一貫学力部会を年5回程度行う。
- ・小中合同で研究授業や夏季研修会を行う。
- ・NET・英語科教員・英語教育推進委員の交流を進め、英語科及び国際コミュニケーション科の授業改善を進める。
- ・学力テストの結果分析を持ち寄り、共通の課題を見つけ、学力部会で改善策を検討する。
- ・小学校卒業時に、中学校入学時に回収する春季休業中の宿題を小中連携で作成する。

【学校】

- ・「ディベート教育」を通じて、論理的思考や問題解決能力、情報選択能力等を養うとともに、「考える力」をベースに寝屋川方式の学習法（ねやがわスタンダード）を通して、学力・体力等を確実に身に付けさせる。
- ・表現や体験を取り入れた教育活動を通じて、成功体験や達成感の醸成を図る。（梅太鼓、梅小ソーラン等）
- ・話し合い活動や発表の場を取り入れた授業を設定する。
- ・各種人材や学習ボランティア等による個別指導を行う。
- ・「めあて・まとめ・ふりかえり」カードでの「指導と評価」の一体化を図る。
- ・授業における「話型」「聴型」「書型」の徹底を図る。
- ・多層指導モデルMIMの活用により「全体」から「個」へ効果的な指導を行う。